女子大学生における雨中人物画の主観的意味づけの諸相

廣田愛海[1)]・平野真理[2)]

Various Aspects of Subjective Meaning in the Draw-a-Person-in-the-Rain Test Among Female University Students

Ami HIROTA・Mari HIRANO

要旨

本研究では、描き手のストレス対処が表れるとされる雨中人物画を用いて、描画後の説明について基礎的データを得るため、大学生162名に雨中人物画を実施し、自由記述にて描画の説明を求めた。KJ法を参考にした分析から、【感情】【行動】【状況】【物語り】という4個のカテゴリーが見いだされた。カテゴリー間の関係性から、雨への対処（受動的－能動的）、説明の焦点（個人－世界）という2つの軸が見いだされ、【物語り】カテゴリーの語りには3つのパターンがあることが考えられた。以上より、①描画の説明から描き手のイメージを受け取ることができる、②描き手の適応の方向性が理解できる、③描画後に対話で心理療法的な効果が期待できる可能性、④検査者は描き手から自然な語りが生まれるような態度でいることが望ましいこと、が考えられた。

キーワード：雨中人物画，描画後質問，KJ法

1．問題と目的

心理テストにおける描画法には，Koch[1)]の樹木を描かせるバウムテストや，Machover[2)]の異なる性の人物を一人ずつ描かせる人物画，Buck[3)]の家，木，人を一枚ずつの紙に描かせるHTPテストなどがあり，描画法は今日の心理臨床の実践において心理査定や心理面接に広く用いられている。描画には，言葉では表現されない自己の内的な欲求や葛藤，感情，そして心理的な状態などが表現されるとされ[4)]，検査者が描き手に対する心理的支援を検討する際はもちろん，描き手自身が一連の描画体験を通して洞察を深めることにも役立つ[5)]。描き手のより多くの側面を把握するために，様々な改良や工夫を加えた技法が考案されている[6)]。例えば，「あなたを含めて，家族の人たちが何かをしているところ」を書いてもらう動的家族画[7)]や，「あなたが学校で何かしているところを描いてください。その絵の中にあなたとあなたの先生，そして２人以上の友達を描いてください」と教示をする動的学校画[8)]，「お母さんと子どもの絵」を描いてもらう母子画[9)]などが挙げられる。その具体的課題描画テストの一つであり，人物画の一種としてHammer[10)]によって紹介された雨中人物画（Draw-A-Person-in-the-Rain-test）という描画テストがある。雨中人物画はストレス下の自己イメージや防衛能力を測定するテストであり，一般的に，雨はストレス，傘（雨除け）は防衛様式，人物は自己を表しているものとして解釈されることが多い[11)]。雨中人物画の実施は，A４サイズの画用紙を縦置きにして，「雨の中の私を描いてください」と教示をする。当初はHammer[10)]の原法通りに「雨の中の人」を描いてもらうように教示をしていたが，澤柳ら[12)]の研究によって「人」という刺激語では自己像と結びつかない集団や人物など

東京家政大学大学院人間生活学総合研究科
人間生活学専攻 博士課程１年[1)]
東京家政大学大学院人間生活学総合研究科・人文学部
心理カウンセリング学科[2)]

が出現しやすいことが明らかになった。そのため，わが国では主体が自己であることを明確にするため「雨の中の私」という教示で施行されることが多い。Hammer[10]は，Machover[2]の人物画（Draw-A-Person）と雨中人物画を比較して，雨中人物画には被検査者の心理的問題が投影されやすいことを主張した。日本でも，澤柳ら[12]による病院臨床場面や仲嶺[13]による教育現場，藤掛[14]による非行少年を対象とした研究など，様々な分野において，雨中人物画は対象者の臨床的な特徴を読み取りやすいツールとして用いられている。

描画には描き手自身が気づいていない心理状態やパーソナリティの側面などが表れるが[6]，描画に表現されたものを正しく理解するためには，絵だけによる目隠し分析のみでは不十分である[4]。描き手が何を描いたのか，どのようなイメージを持っているのか等について聞き取る描画後質問（Post Drawing Interview: 以下PDI）はきわめて重要な役割を担っている[15]。例えばバウムテストやHTPテストにおいて，描画後に「この木は何の木でしょうか」[5]「この家を見ると何か思い出しますか」[4]というように必要に応じて様々な質問をする。このPDIの効果について，Buck[3]は，PDIを行うことにより描画の状況に関する描き手の意味づけや解釈，連想が得られると述べている。Hammer[10]も，絵の内容について説明することは詳細で適切な描画情報を提供することを指摘している。雨中人物画においても非行少年を対象とした研究において[16]，描画内の人物が笑っている描画からは想定できなかった描き手の心理的に切迫したイメージが描画後に語られたことから，雨中人物画においてもPDIの重要性が示されている。そして中井[17]は，作品が完成し，それを前にしたとき患者の中に解釈がおのずと出来上がることが多いと指摘しており，雨中人物画においても描いた絵を改めて眺めることで描き手なりに自分の描画を解釈する可能性があるかもしれない。様々な描画研究においてPDIの必要性が示されていることから，検査者は主観的に描画を読み取ろうとするのではなく，描き手の解釈を聞いたうえで描画について理解しようとする姿勢でいることが必要であると考えられる。

そこで本研究では，雨中人物画の描画後の説明において，描き手が何をどのように説明し，伝えようとするのかについての基礎的データを得ることを目的とする。それにより，雨中人物画の解釈における描き手の描画説明の有用性を検討するとともに，描画後の質問においてどのように聞き取ることが重要であるかについての示唆を得ることを目指す。

2．方法

（1）調査対象者・時期

都内大学に通う女子大学1年生162名を対象とした。調査時期は①2017年4月（76名），②2018年4月（86名）であり，参加者全員が新入学生であるという点で参加者の環境の質を統制するために時期を分けて行った。

（2）調査手続き

講義終了後の教室において，研究の趣旨および倫理的配慮について説明をした後，集団法で雨中人物画および描画の説明を求める自由記述を実施した。調査への参加は強制でないことを十分に伝え，取り組みたくない者は白紙で提出してもらうよう伝えた。終了後，雨中人物画の全般的な解説を行った上で，退室時に出口の提出箱に入れてもらうよう指示した。調査は匿名で行われたが，検査用紙の返却を求める者については学籍番号と氏名を記入してもらった。調

査実施中は臨床心理士資格を持つ者が参加者の様子に注意し，フォローが必要な場合はすぐに対応できるように配慮した。なお，本研究は調査時期②の実施前に●●●●●倫理委員会（番号●●）の承認を得て実施した。また調査時期①では②と同様の手続きで倫理的配慮を持って実施し，十分なインフォームドコンセントを確認した者のみを対象とした。

（３）調査内容

１）雨中人物画　Ａ４の白い紙に枠づけしたものを調査対象者に配布し，「雨の中の私を描いてください」と教示をし，時間は約15分間で自由に描いてもらった。枠付けには描き手の心理的表出を保護し開放する側面と，表出を制限する側面があり[18]，今回は参加者にとって侵襲性の低いものにするために枠付け法を採用した。また今回は一度に多くの対象者に描画テストを実施することや，全ての紙に枠付けをする必要があったため，画用紙ではなくＡ４の白い紙を使用した。対象者にはできる限り鉛筆やシャープペンシルを使用してもらい，それらがない場合にはボールペンを使用してもらうよう伝えた。本研究は集団での施行であったことから，通常の人物画を実施する上で必要な筆記具が統一されておらず，実施において筆記用具の影響がないとはいえない。ただし今回は，描画の筆圧やストローク，描かれたものの大きさというような部分は分析対象としておらず，描き手の中の「雨の中の私」という表象の内容や物語りに焦点を当てていることから，鉛筆以外で描かれた描画を描いた者も調査対象とした。

２）自由記述　描き手が自身の描画を改めて見た際，どのような主観的な意味づけをするのかを検討するため，絵についての説明を求める自由記述を実施した。調査時期①と②における162名に，雨の量を１（非常に弱い）から10（非常に強い），濡れ具合１（ほとんど濡れていない）から10（かなり濡れている）でそれぞれ10段階で記入し，描画については「絵の中の人物は何をしていて，どのような状況でしょうか」という質問に対して自由に記述することを求めた。

３）分析方法

調査時期①と②で得られた「絵の中の人物は何をしていて，どのような状況でしょうか」という質問に対してKJ法[19]を参考に分析した。得られた自由記述について，　162名の回答をカードにし，162名のうち無回答であった３名のカードを除外して，159名を分析対象とした。分析は，大学院所属の臨床心理士２名により行われた。

３．結果と考察

（１）「雨の中の私」描画に対する描き手の説明の分類

「雨の中の私」描画について説明された自由記述159件について，記述されている内容を意味のある文脈ごとに切片化したところ，227個の切片が得られた。続いて，類似している内容の切片同士を集約したところ28個の小カテゴリーが見出された。その後，28個の小カテゴリーについて関係性を検討したところ，22個の小カテゴリーが８個の中カテゴリーにまとめられ，最終的に【感情】【行動】【状況】という３個の大カテゴリーが生成された（表１）。以下に，大カテゴリーを【　】，中カテゴリーを〈　〉，小カテゴリーを［　］，記述例を「　」で示す。

【感情】カテゴリーには，「ゆううつな気分」「気分が上がらなくて」といった［ネガティブ感情］，「雨降ってきたなー」というような雨が降ったことに対して良くも悪くも思っていない［ニュートラル］な感情，雨が降ったことを「意外に楽しんでいる」というような［ポジティブ

N=159

表１　自由記述から得られた描画の説明

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	度数	%	記述例
感情		ネガティブ感情	11	4.85	ゆううつな気分。気分が上がらなくて。悲しい気分。フキゲン。
		ニュートラル	3	1.32	無心。雨降ってきたなー、でも出かけようくらいの気持ち。
		ポジティブ感情	7	3.08	意外に楽しんでいる。びっしょり濡れるのを楽しんでいる。
行動	雨への対処	傘	13	5.73	傘をさしている。傘をさして雨をよけている状況。
		傘と他の雨具	9	3.96	傘と長靴の装備。傘をさしてレインコートを着ている。傘を持ってレインコートと長靴を身に着けている。
		雨避けなし	6	2.64	雨に打たれて濡れている。傘を差さないでたたずんでいる。傘をさすのをあきらめた。
		雨宿り	1	0.44	雨宿りしている。一人で雨宿り。
	立つ	傘をさして立っている	22	9.69	傘をさして立っている。傘をさして突っ立っている。
		ただ立っている	10	4.41	立っている。立ち尽くしている。ただただ立っている。止まっている。
	見る	見上げる	7	3.08	上を向いて。空を見上げてる。
		雨を見る	3	1.32	雨を見ている。雨が降っている外を見ている。
		水たまりを見る	2	0.88	水たまりにうつる自分を見つめている。
	歩く	歩いている	16	7.05	歩いている。傘をさして歩いている。だるそうに歩いている。
		どこかへ向かう	9	3.96	家に帰っている途中。通学。どこかへ行く途中。
		散歩をしている	5	2.20	かさをさしてお散歩している。散歩している。
	その他	何かを待つ	12	5.29	バスを待っている。相手を待っている。何かを待っている。
		表情	10	4.41	楽しそうに笑っている。微笑んでいる。無表情。真顔。
		遊んでいる	6	2.64	水たまりで遊んでいます。歌っていそう。
状況	周囲の環境	場所	12	5.29	レンガの積まれた高い場所から。街の中。広い野原の真ん中に通っている道。駅のホームで。公園にいる。
		周囲の具体物	5	2.20	ところどころに水たまりがある。周囲には物がない。
		周囲の人・生き物	4	1.76	周りには人がいない。傘を持って歩いている人がいる。カエルさんとカタツムリさんがいる。
		気候・空	2	0.88	湿度が高い。真っ暗。
	雨の強さ	雨	21	9.25	雨の中。雨が降ってきて。
		強い雨	11	4.85	大雨の中で。雨が強すぎて。かなり雨が降っている。台風とまではいかないが強めに降っている。
		弱い雨	7	3.08	小雨くらい。ぱらつく雨。しとしと雨。雨はほとんどやんでいて。少し雨がふっているけど晴れにもなりそう。
	濡れ具合	一部濡れている	7	3.08	足元は濡れている。バッグは濡れていそう。髪の毛が少しだけ。
		濡れが少ない	4	1.76	ほとんど濡れていない。あまり濡れていない。
		濡れている	2	0.88	結構濡れてしまっている。濡れている。

感情］，という３つの小カテゴリーが集約された。このように【感情】カテゴリーは，描画を見ただけでは読み取ることができない人物の感情の記述が集約されたものであると考えられる。

【行動】カテゴリーにおける〈雨への対処〉には，「傘をさしている」というように傘を使って雨を避けていることを説明した［傘］カテゴリー，「傘をさしてレインコートを着ている」というような傘を使用しながらほかの雨具を併用している［傘と他の雨具］カテゴリー，「雨宿りしている」というような雨具を使わず雨を避けている［雨宿り］カテゴリーが集約された。また，「雨に打たれて濡れている」「傘を差さないでたたずんでいる」というように傘や他の雨具を使用したり雨宿りをしたりせず，雨を避けていない［雨避けなし］カテゴリーも雨に対処しないという点で〈雨への対処〉に含まれた。〈立つ〉には，［傘をさして立っている］カテゴリーと，「立ち尽くしている」というように何をするわけでもなく立っていることが説明された［ただ立っている］カテゴリーが集約された。〈見る〉には人物が３方向の目線でいることが記述されており，「空を見上げてる」といった［見上げる］カテゴリー，「雨が降っている外を見ている」というような［雨を見る］カテゴリー，「水たまりにうつる自分を見つめている」というような［水たまりを見る］カテゴリーが集約された。〈歩く〉には，単純な「歩いている」といった説明がされている［歩いている］カテゴリー，「家に帰っている途中」「通学」など目的をもって歩いていることが記述された［どこかへ向かう］カテゴリー，そして［散歩をしている］カテゴリーが集約された。〈その他〉には，前述した４つの中カテゴリーに当てはまらなかった「バス」や「相手」を待つ［何かを待つ］

表２　自由記述から得られた描画の物語り

N=159

物語り	全体のストーリー	28	朝、家を出たら雨が降っていたから折りたたみではない傘を持って雨靴をはいた。まだ時間に余裕があったので、ゆったりと歩いて駅に向かっている
	私ではない誰かのストーリ	14	高校生か会社員ぐらいの年。少年。お天気お姉さん。

カテゴリー，「笑っている」「真顔」など顔の動きを説明した［表情］カテゴリー，「水たまりで遊んでいます」「歌っていそう」といった［遊んでいる］カテゴリーが集約された。このように【行動】カテゴリーは，雨の中で人物がどのような行動をしているのかに関する記述が集約されたものであると考えられる。

【状況】カテゴリーにおける〈周囲の環境〉には，「レンガの積まれた高い場所」や「広い野原の道」など人物が置かれている環境を記述している［場所］カテゴリー，「水たまりがある」というように人物の周囲にあるものについて記述された［周囲の具体物］カテゴリー，「人がいない」「カエルさんとカタツムリさんがいる」というように人物の周囲の人や生き物について説明している［周囲の人・生き物］カテゴリー，「湿度が高い」というように気候や空の様子について説明された［気候・空］カテゴリーの４個の小カテゴリーが集約された。〈雨の強さ〉には，単純に雨について述べている「雨」カテゴリー，「大雨の中」「かなり雨が降っている」というような［強い雨］カテゴリー，「小雨」「しとしと雨」のような［弱い雨］カテゴリーが集約された。〈濡れ具合〉には，「足元は濡れている」というように人物の一部分が濡れていることを説明した［一部濡れている］カテゴリー，人物の濡れがほとんどないことを説明した［濡れが少ない］カテゴリー，人物が濡れていることを説明した［濡れている］カテゴリーが集約された。このように【状況】カテゴリーには，人物の周囲の状況に関する記述が集約されていることが考えられる。

上記に分類できた記述以外に，様々な要素が複合的に説明の中に組み込まれているため切片化ができなかったものと，記述の中に登場する人物が「私」ではなく全く異なる人物に変わっているものを【物語り】カテゴリーとして，記述を切片化せずにまとめた（表２）。【物語り】カテゴリーに分類された記述には「朝，家を出たら雨が降っていたから折りたたみではない傘を持って雨靴をはいた。まだ時間に余裕があったので，ゆったりと歩いて駅に向かっている」というようなものがあり，人物の感情，行動，そして周囲の状況について一つのストーリーになるように記述されていた。そして，「朝，家を出たら雨が降っていた」「まだ時間に余裕があった」というように，【物語り】カテゴリーに含まれる記述には，描画からは読み取ることができないその人物の個人的な背景情報が説明される可能性が考えられた。

以上のことから，描き手の雨中人物画における主観的な意味づけは非常に多様であり，描画を見ただけでは読み取ることのできない描き手の詳細なイメージを受け取ることができる有益な情報になり得ることが考えられた。

（２）カテゴリー間の関係性

【感情】【行動】【状況】の３つのカテゴリーの関係性を検討した結果，雨への対処が受動的であるか能動的であるか（受動的対処―能動的対処），説明の焦点が自分に向いているのか自分を含めた周囲の世界に向いているのか（個人フォーカス―世界フォーカス），という２つの軸が見いだされた（図１）。

【感情】カテゴリーは，雨の中にいる“私”が

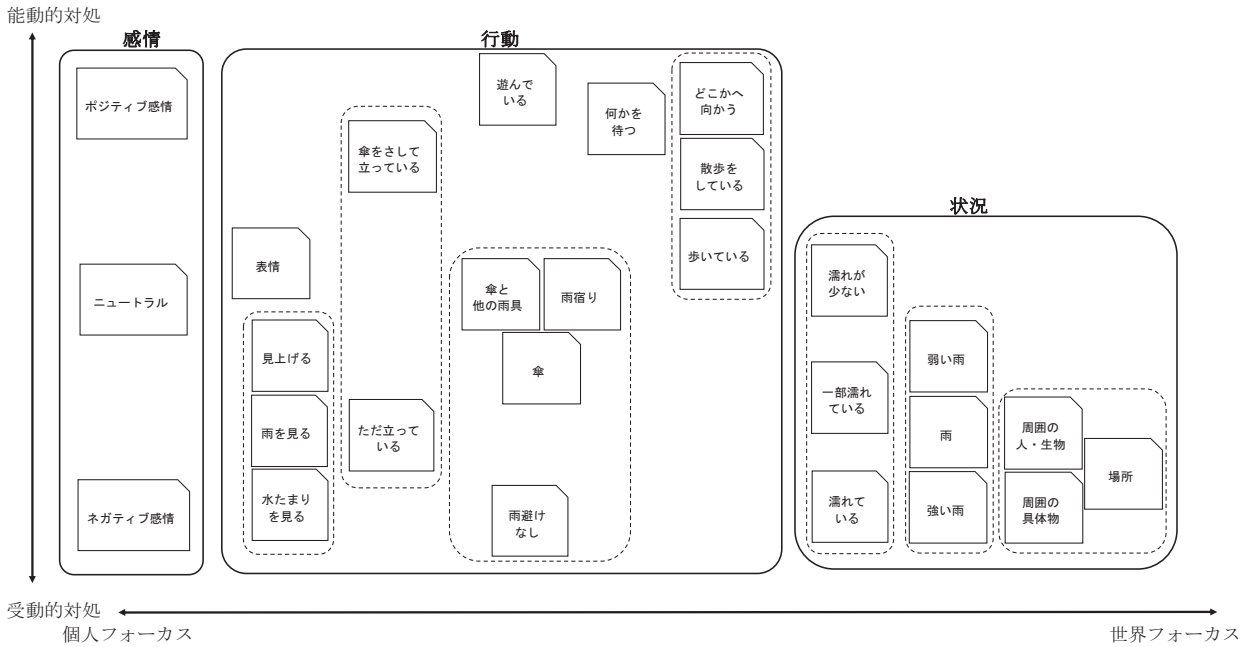

図１　カテゴリー間の関係性

どのような感情を抱いているのかの記述であり，内的な世界を説明したものであるため，説明の焦点が個人に向いていることが読み取れる。そのため，個人フォーカスに位置づけられた。また【感情】の中には［ポジティブ感情］［ニュートラル］［ネガティブ感情］があり，雨（ストレス）の中にいることを自ら肯定的に捉えている［ポジティブ感情］を能動的な対処とし，ストレスに対して受動的になるほど［ネガティブ感情］が生じると考えられ，図のように配置した。【行動】カテゴリーは，ある程度の客観性が保たれて，描画と描き手のイメージに大きなずれが生じにくいと考えられる。【行動】カテゴリーに含まれている記述は，雨の中にいる“私”がどのような行動をしているのかについての説明であり，行動が個人の中で完結しているものと，個人から世界に向いている行動があったため，個人フォーカスと世界フォーカスの中間に位置付けられた。【行動】の中では，雨の降る世界を［見る］，雨への対処をしつつもその場に［立つ］というような自己の世界に留まっているような行動から，どこかへ向かったり散歩をしたり［歩く］というような向社会的な行動まで個人―世界の幅があり，その中でも雨に対して受動的―能動的な行動までグラデーションがあることが考えられた。そして【状況】カテゴリーは“私”よりも“雨の中”という世界についての客観的記述であることが読み取れる。そのため，図の世界フォーカスに位置付けられた。【状況】の中でも，人物に言及している［濡れ具合］は個人に焦点が向いているが，描画内の人物には触れられておらず人物の周りの者や人，人物のいる場所について説明している［周囲の状況］は世界へのフォーカスが特に強いと考えられた。

（３）【物語り】カテゴリーの位置づけと説明パターン

【物語り】カテゴリーは，【感情】【行動】【状況】のどれにも振り分けることができず，個人的な背景情報を含みながらストーリーとして展開されていく記述であった。【物語り】カテゴリーの記述から，“雨の中の人物”についての

表３　物語りのパターンと記述例

パターン	度数	記述例		
		感情	行動	状況
感情－行動	5	悲しそう	雨宿りをしている	―
		イライラしています	歩いています	―
		楽しくて気持ちいい	遊んでいます，ワンピースを着て	―
行動－状況	15	―	登校している	土砂降り，下半身はびしょぬれ
		―	ゆったりと歩き，駅まで向かっている	家を出たら雨が降っていたから
		―	早足で歩いている	周りにはたくさんの人が歩いている
感情－行動－状況	6	そんなに沈んでいない	傘をさして歩いている	これから人に会う予定があり
		気分は晴れないが	立ち止まって	足元は少し濡れる，空は少し明るめ
		楽しんでいる	歩いている，お花を見つけて	新品の傘と長靴

説明には３つのパターンがあることがうかがえた（表３）。

一つ目は，「雨に打たれて○○と一緒に遊んでいます。傘をくるくるして，お気に入りのワンピースを着て，楽しくて気持ちいい」というように人物の「楽しくて気持ちいい」という感情と，人物が「遊んでいます」「傘をくるくるして」といった行動を中心に物語りを展開しながら説明している記述を感情―行動記述パターンとしてまとめた（図２）。

二つ目は，「朝，家を出たら雨が降っていたから，折りたたみではない傘を持って長靴をはいた。時間に余裕があったので雨の中をゆったりと歩き，駅まで向かっている」というように人物の行動と，「朝，家を出たら雨が降っていたから」「時間に余裕があったので」のように

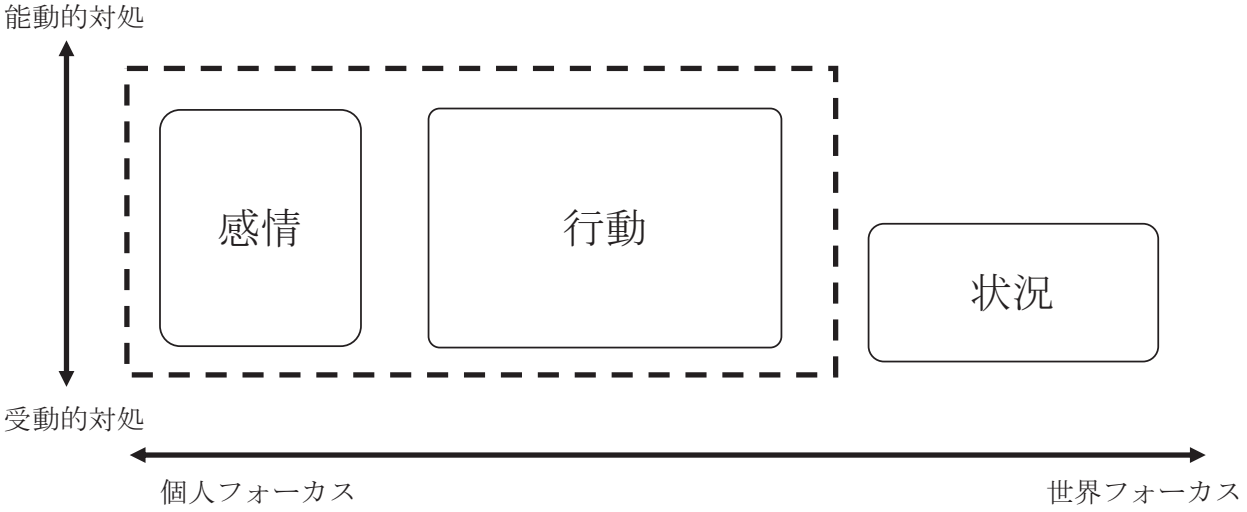

図２　感情―行動記述パターン

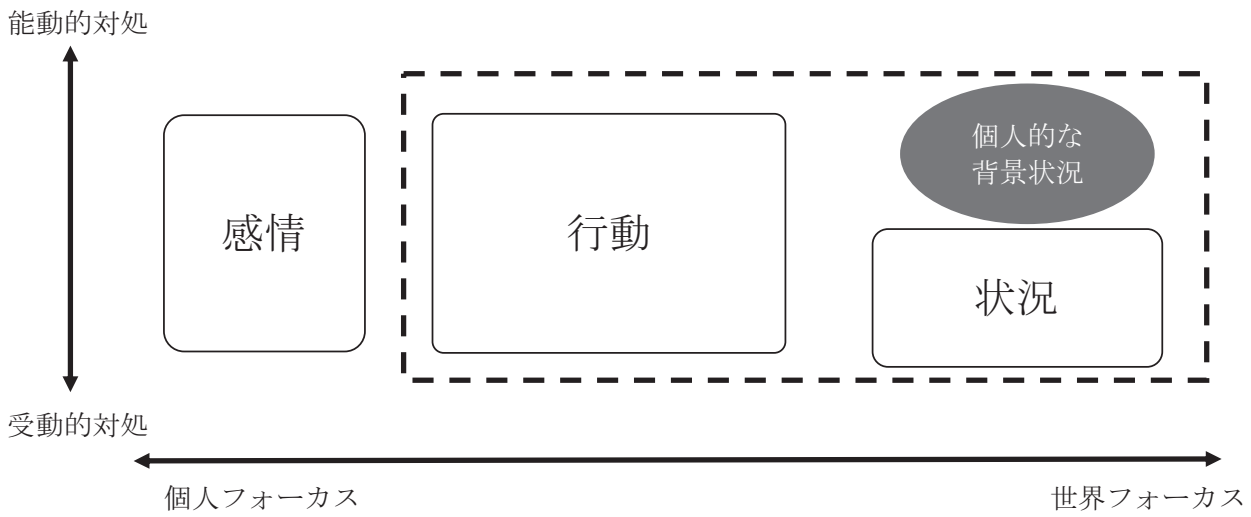

図３　行動―状況記述パターン

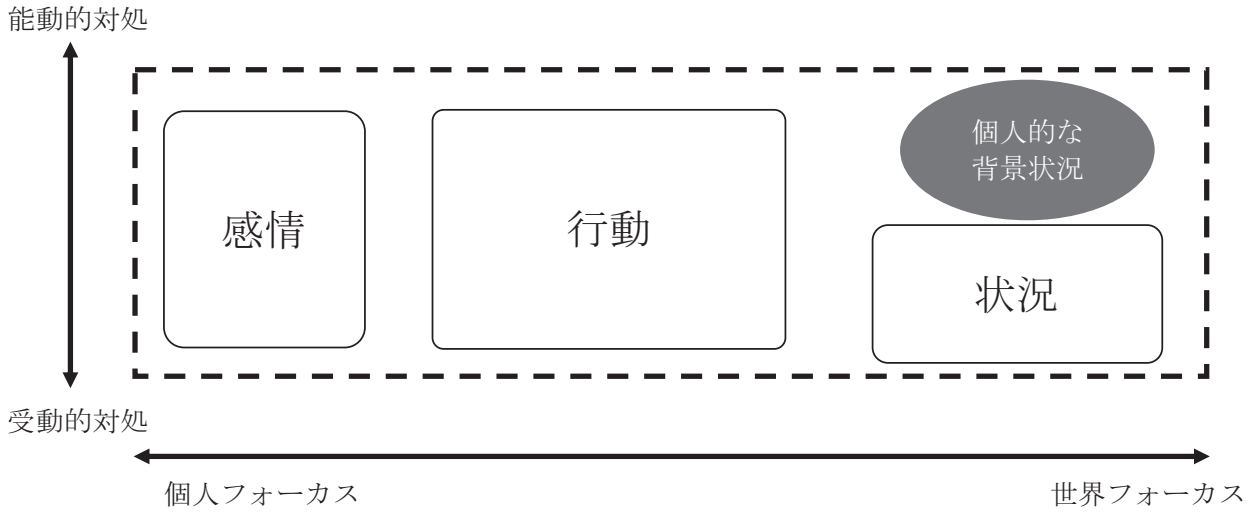

図４　感情―行動―状況記述パターン

描画からは読み取ることができない描き手のイメージしている人物の背景情報が記述されているものが行動―状況記述パターンとしてまとめた（図３）。

三つ目は，「雨で気分は晴れないが，傘が雨をはじいていることをいいなと思っている。だから立ち止まってそれを実感している。でも足元は少し濡れる。空は少し明るめ」というように，「気分は晴れないが」「傘が雨をはじいていることをいいなと思っている」という人物の感情，「立ち止まって」いる人物の行動，「足元は濡れる」「空は明るめ」という人物の周囲の状況が一連のストーリーとして語られているものを感情―行動―状況記述パターンとしてまとめた（図４）。このパターンにも，「これから人に会う予定があり」「新品の傘と長靴」というように，描画には表現されない個人の背景情報が付け加えられている記述もあった。

（４）“私”から離れた人物の説明

本研究にて，描画を実施する際の教示は「雨の中の私を描いてください」としたのに対し，描画の説明を求める際には「雨の中の人物は何をしていて，どのような状況でしょうか」と教示をした。雨の中の“私”に統一しなかった理

表４　私以外の人物の記述例

	度数	記述例
女の子	5	一人でなんだか楽しそうな女の子。 小学三年生くらいの女の子。
人・人物	5	この人は雨が好きじゃない。 高校生か、会社員ぐらいの年。
女性	2	Zipのお天気お姉さん。 女の人が傘をさして立っている。
少年	1	家出してきた少年。
男性	1	お金持ちのおじさん。

由としては，描き手が自身の描画を改めて見直した時，どのような意味づけがされるのか知見を得たいと考えたためであり，描き手が描画内の私を客観的に捉えることができるよう「人物」と教示を変更した。そのため，描画の説明で“私”ではない人物として説明されていたことが考えられる（表４）。

４．総合考察

本研究では，雨中人物画の実施後の描画に関する説明の自由記述を分析し，そこで何がどのように説明され得るのかについて検討した。カテゴリー生成と，カテゴリー間の関係性の検討を通して，雨中人物画についての説明の特徴と４つの臨床的示唆が得られた。

（１）描画の説明から得られる描き手の「雨の中の私」イメージ

「雨の中の私」について説明する記述から，描画を見ただけでは分からない描き手のイメージを受け取ることができると考えられた。実際に絵を通して描き手の世界を読み取ろうとするときには，描画者の画力に頼らざるを得ず，野口・馬場[20]の調査では，雨中人物画を描いた参加者から，思い浮かんでいるイメージを絵にすることができなかった不全感が語られたことが報告されている。本研究の分析後に描画と自由記述を比べてみると，一見立ち止まっているように見える描画でも，描画後の説明では「歩いている」と説明されているものがあった。また，雨中人物画の説明では標準的であると言えるような「傘をさして立っている」というものの他に，「ぼーっと立っている」「立ち尽くしている」「呆然と立っている」など，描き手の細かいニュアンスが伝わるような記述があった。描き手が描画に動きを見たり，描画だけでは伝わらないニュアンスは，ただ描画を見ただけではわからない。例えばロールシャッハテストでは，同じ内容の反応であっても，「コウモリが飛んでいる」「女の人がダンスを踊っている」などの動き（運動反応）を見ている場合があり，そうした投影のあり方は知ることは，本人の心理的力動を理解する上で重要である。検査者が描き手のイメージにより近づき，描画の解釈が本人から離れた解釈にならないためにも，本人から語られた描画に関する情報を含めて解釈をしていくことが重要であるといえよう。

（２）描画の説明から読み取る描き手の適応性

描画後の説明から，描き手がどのように世界と向き合っているのかといった適応の方向性が理解できる可能性が考えられた。雨中人物画において，一見ネガティブに見える描画であってもそこには描き手の適応努力が表現されていることがある[10)15)]。今回の調査で見出された【物語り】カテゴリーにおける記述の３パターンか

らは，彼らがどのように世界を解釈しているのかを知ることができる。感情―行動記述パターンのように個人にフォーカスを向けた物語りでは，「雨の中」というストレス状況の中で「私が何を思い，どのような行動をしているのか」を説明していることから，外的世界を自分の内側で処理していこうとする姿勢が読み取れる。また，行動―状況記述パターンのように個人と世界にフォーカスを向けた物語りでは，ストレス状況下で「どのような状況かを把握し，私はどのような行動をしているのか」を説明していることから，周囲に目を向けて広い視野を持ちながら行動で対処していく様子が伺える。そして，感情―行動―状況記述パターンのように，自分の内側に生じる感情や実際の行動，周囲の状況を総合的に捉えた物語りでは，一連の物語に時間の流れを感じることから，より視野を広く持って自身の感情や行動を文脈の上で捉えることのできる力が感じられた。この【物語り】の３パターンのように，“雨の中の私”という文脈において自分にとって重要な，あるいは必要な要素を探し出し，主観的な意味づけおこなう過程は，彼らが有している資源や資質を自らで見つけていく過程と類似するかもしれない。このように，描画のみで個人の適応能力や社会的な態度を理解しようとするのではなく，描き手によって与えられた描画の内容や意味を受け取ったうえで，描画の説明を含めて彼らの適応の仕方を理解していくことが大切と言えるだろう。

（３）雨中人物画実施後の心理療法的効果の可能性

雨中人物画を実施した後に描き手と検査者が描画を眺めながら語り合うことで心理療法的な効果が期待できる可能性が考えられた。全般的に，描画テストにおけるPDIは，描き手が描画を通して何を表現したのかを適切に理解するだけではなく，描き手が自身の描画を見つめ直すことによって洞察が深まったりカタルシス効果が得られるとされている。雨中人物画は「雨の中」という課題が加わることによって人物画が賦活され，一般的な人物画やバウムテストと比べた時に，雨中人物画は内省力が弱いとされる非行少年たちとの会話でも活発な会話ができるというメリットがある[10)]。本研究では，描き手と検査者が対面で行う一般的なPDIの実施ではなく，自由記述での描画説明という間接的なやり取りであったという制約はあるものの，カテゴリーとしてまとめることができるだけの豊かな記述が見られていることから，治療的効果は雨中人物画でも同様に期待できる可能性が考えられた。

（４）「雨の中の私」イメージを引き出すための望ましい態度

今回の調査から，雨中人物画には描き手の豊かなイメージやストーリーが投影されやすいことが示唆された。前述の三つの考察を踏まえ，実際の臨床場面で雨中人物画を用い，描画後に描き手と検査者が一対一で描画についての対話をする際には，検査者は描き手のイメージやストーリーが無理なく自然に生み出されるような対話をすることが望ましいと考えられる。そして従来の描画テストで実施するPDIと同様に，描き手が語らない部分には無理な言語化を求めず，まずは描き手と検査者で描かれた絵を共に味わい，描き手の世界を受け止める姿勢でいることが大切だろう。

（５）本研究の限界

雨中人物画は描き手の心理状態や適応能力をアセスメントすることができるだけではなく，心理療法の可能性にも開かれているが，最後に本研究の限界として以下の２点を挙げる。まず，

対象者が女子大学生であったことから，語りの内容に性差があると想定されるため，今後は男子大学生への調査を実施することで，青年期のデータを厚くする必要があるだろう。そして，今回の調査は講義内での集団実施であったことから，一度に多くのデータを収集することができる自由記述を採用した。今後は描き手のより豊かな説明を得て，検査者が描画後の質問で必要な質問や望ましい態度を検討するために個別に実施した対面でのデータも必要と考えられる。

引用文献

1）Koch, C.(1952). Der Baumtest. 林勝造・国吉政一・一谷彊訳（1970). バウム・テスト―樹木画による人格診断法―　日本文化科学社.

2）Machover, K.(1949). Personality Projection in the Drawing of Human Figure. 深田尚彦訳(1974). 人物画への性格投影　黎明書房.

3）Buck, J. N. (1948). The H-T-P Technique: A Qualitative and Quantitative Scoring Manual.　加藤孝正・萩野恒一訳(1982). HTP 診断法　新曜社.

4）高橋依子(2011). 描画テスト　北大路書房.

5）高橋雅春・高橋依子(2010). 樹木画テスト　北大路書房.

6）赤坂澄香(2014). 投影描画法ハンドブック―絵によるパーソナリティ理解―　武久出版

7）Burns, R. C. and Kaufman, S. F.(1972). Actions, Styles and symbols in Kinetic Family Drawings.　加藤孝正・伊倉日出一・久保義和（1975). 子どもの家族画診断　黎明書房.

8）Prout, H. T. and Phillips, P. D.(1974). A clinical note: The Kinetic School Drawing. Psychology in the schools, 11, 303-306.

9）Gellespie, J. (1989). Object relations as observed in projective mother-and-child drawings. The Arts in Psychotherapy, 16, 3, 163-170.

10）Hammer, E. F. (1958). Clinical application of projective drawings. Illinois: Charles C. Thomas.

11）Verinis, J. S., Lichtenberg, E. F. & Henrich, H.(1974). The Draw-a-Person-in the-Rain technique: Its relationship to diagnostic category and other personality indicators. Journal of Clinical Psychology, 30, 407-414.

12）澤柳志津江・石川元・川口浩司・大原健士郎（1989).「雨中人物画」にあらわれた森田療法の治療過程　臨床精神医学, 18, 1, 81-89.

13）仲嶺裕子（2006).　投影の観点からみた不登校生徒との心理療法過程　カウンセリング研究, 2006, 39, 308-316.

14）藤掛明（1999). 描画テスト・描画療法入門　臨床体験から語る入門とその一歩あと　金剛出版.

15）高橋雅春（1974). 描画テスト入門　文教書院.

16）藤掛明（2000). 雨の降る情景…「雨の中の私」画という描画法　刑政, 111, 2, 46-51.

17）中井久夫（1976).“芸術療法”の有益性と要注意点　芸術療法, 7, 55-61.

18）中井久夫（1974). 枠づけ法覚え書. 芸術療法, 5, 15-19.

19）川喜多二郎（1967). 発想法―創造性開発の

ために　中央公論新社.
20）野口つばさ・馬場史津（2016）. 雨のイメージと「雨の中の私」の関連について　中京大学心理学研究科・心理学部紀要, 15, 第１・２合併号, 19-25.

Abstract

Using the Draw-a-Person-in-the-Rain Test, which is designed to show how participants cope with stress, in this study, 162 university students were asked to draw a person in the rain and then explain their drawing in writing in order to obtain fundamental data about the post-test explanations. Based on an analysis with reference to the KJ method, four categories were identified: emotion, action, situation, and storytelling. Two axes were found in the relationship between the categories: coping with rain（passive-active） and focus of explanation（individual-world）. This suggests that there are three patterns in the storytelling category. These results indicate that（1）it is possible to understand the image that the participant had in mind based on their description of the drawing,（2）it is possible to understand the directionality of the participant’s adaptation,（3）there is the potential to achieve psychotherapeutic effects through post-test dialogue, and（4）it is desirable for the examiner to be predisposed to allowing the drawer to naturally generate their own narrative.

Keywords：the Draw-a-Person-in-the-Rain test,　Post Drawing Interview,　KJ method